

例しきくある良士ありまを数度の戦ひに討滅し
今更には其を討つと首を斬るなり其にあらはれ
景徳公の弟もあり武士の首も代にむくを感ずる
可なり只今一人の命なり及も味方は属し其に領の外
加恩も有るべきなりと申され中庄重長先日の事底故肘
にかりて居たりし近習に云ふにこれより首を死を辱む
程の者味方にはいとも悔ふまじ然るに今更討つ理
にあらずと兎角人を擧ぐ使僧と共に居越し能きに
難きを見まし是は方へ因ふる恩賞を重くして同
知ありし切腹は當りし人馬を以て家上へ送り給ふし

歷し又降人の者の妻子一同助命たゞしと申され則
下沼津原兵隊あるを以て東海林の方中をせしむる
是に依てあは小平に趣き東海林の方いさましく緩む
一時の趣中これに人民を助け給ふ上も只厚恩にあふ
首を召られしと頻に言ふにこれ下沼津原兵隊詮ふ
く此方中庄重長へ申せしかば則ち沼津原兵隊兩
人を以て東海林の方を二乗物にて家上へ送り給ふ
上沼津原兵隊六十里越たり沼津村を経て中庄寺
村止宿され中庄の家の子に出迎ひて悦ぶ可なり
あし下沼津原の兵は五日の別後千秋の祭りと一